

第11回高校生国際シンポジウム 参観

R8.2.24

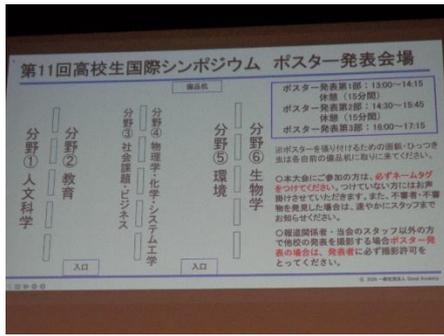
令和8年2月18・19日に鹿児島で行われた「第11回高校生国際シンポジウム」を生徒の代表1年生3名、2年生1名と教員2名が参観してきました。

この大会の主催者は、一般社団法人 Glocal Academy 理事長の岡本 尚也 先生で、1・2年生が「総合的な探究の時間」で使用している探究の教科書の作者です。そして、この大会は、全国の高校生対象の探究の大会の中でも学術的なレベルの高さで有名です。



初日は、基調講演とパネルディスカッション「社会の変化と求められる力」の後に、課題研究発表がスライド発表の部とポスター発表の部に分かれて行われました。スライド発表は5分野各11名ずつ、ポスター発表の部は6分野各15名ずつの発表があり、生徒たちは、それぞれ自分の興味を引くものをチェックし、移動時間も惜しんでしっかりと吸収しようとしていました。夜には、生徒交流会・教員研修会があり、全国から来た「探究好き」の仲間たちと活発な議論を交わしました。

2日目には、表彰式やその講評、進路座談会、登壇者や審査員との交流会、優秀発表・グランプリ発表があり、優秀者の発表をもう一度見る機会がありました。グランプリの「魚の見ている世界の再現をめざして」では、自分が水泳の時に水の中では視野がぼやけるが、水中に暮らす魚にはどのように世界が見えているのだろうかという疑問から、魚眼の網膜上の細胞密度を測定することで、視精度の高い領域を明らかにし、視野再現画像での解像度を定められるのではないかと探究していました。魚の視界はそれぞれの生態系に対応して形成されているのではないかとメダカ、キンギョ、タイ、ヒラメの網膜密度を測定し、視覚情報に依存しているのかも考察し、画像再現まで試みていました。先行研究をしっかりと読み込み、自分なりの仮説を立てて実験し、挑戦していく姿勢は研究者そのものでした。



2日間、脳みそをフル回転してたくさん吸収した生徒たちは、「今すぐ探究に取り掛かりたい！」と興奮気味でした。パネルディスカッションや進路座談会などで改めて生徒たちへ伝えられたことは、「知らないことの中に選択肢はない」ので、「情報は集められるだけ集める」。そのためには、「人との出会いが大切」で、それは「各（学問）分野との出会い」であり、「探究と学習の両立をすることで自ずから進路は開かれていく」ということです。

各学年、「総合的な探究の時間」でそれぞれが1年間探究してきました。時間が足りないと誰もが思ったことでしょう。「自分がやりたいと思ったことを熱心に続け、どれだけ深められるかで、それが自分の未来につながっていく」という今回のパネラーの言葉が参加生徒に刺さっていました。ぜひ、楽しく探究し、自分の未来へつなげ、また後輩へつなげて行ってほしいと願います。

文責 国際探究科 大谷 暁子